

課目名	関係法規・制度						
課目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	湊 啓史		
実施年度	2020年	実施時期	前期	担当者実務経験	行政書士歴8年(現職)		
対象学科・学年	美容科 1年						
授業概要	理美容業界の関係法規・制度を理解し、過去問を中心とした復習を行い、国家試験合格を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					法制度の概要(社会生活における法の役割、法の形式等)を説明することができる。	
	○					衛生行政の概要を説明することができる。	
	○					理・美容師法並びに施行規則を説明することができる。	
	○					関連法規(運営・衛生)に関する法律を説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	関係法規・制度教科書 過去問演習						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	法制度の概要 I・II 社会における法の役割、衛生法規とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	衛生行政 I・II 衛生行政の運用について、保健所の役割と機構				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	理美容師法の目的・構成 附属法令、法の運用にあたる行政機関				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	用語の定義・理美容師養成施設・理美容師試験 受験資格等				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	理美容師免許 理美容師免許、欠格条件について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	理美容師免許登録 免許申請手続き、免許の効力等				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	理美容師の義務・免許の変更手続き 遵守義務、具体的な変更手続き				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	業務停止等・管理理美容師とは 管理理美容師の資格取得等				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	理美容所の開設 開設届、提出先、検査確認、変更等				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	開設者の義務・理美容所以外での業務・立入検査				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	行政処分・罰則 具体的な処分及び罰則とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	関連法規 理美容業を行う際に関係する法律について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	国家試験対策 過去問題を解く					
	14	国家試験対策 過去問題を解く					
15	国家試験対策 過去問題を解く						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業態度は、出席・提出物・授業中の居眠りの回数などで評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					80%
	授業態度				○		20%
履修上の注意	特段の事情を除いて、授業は休まないでください。授業中の私語は、厳禁です。復習は必須です。						

課目名	文化論 I						
課目名(英)	Theory of Barber and Beauty culture I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	吉田 理恵子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	美容文化論教員資格所得後文化論の授業を行う		
対象学科・学年	美容科1年						
授業概要	国家試験に対する知識を深めるとともに、西洋ファッショ文化史を学ぶ。人の歴史の最古から、美容がかかわってきたことを学ぶことは、今を知るためにとても重要である。歴史の中で創り上げられてきた「美しさ」があり、現代のものと融合することで新しいスタイルを生み出すことが出来る。文化論の中にはデザイン発想する為のヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在する。文化を知り学び、知識を得ることにより、お客様が求める美しさを的確に理解し、幅広いスタイル提供ができ、即戦力に繋がることが目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					西洋ファッショ文化史における文化の流れを説明できる。	
	○					西洋ファッショ文化史における、それぞれの時代の髪型・メイクを説明できる。	
	○					理美容業界の歴史について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	日本理美容教育センター 文化論教科書						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1章 総論			教科書を使い、予習復習を行う。		
	2	第4章 ファッショ文化史(西洋編)・・・古代エジプト			教科書を使い、予習復習を行う。		
	3	第4章 ファッショ文化史(西洋編)・・・古代ギリシャ・ローマ			教科書を使い、予習復習を行う。		
	4	第4章 ファッショ文化史(西洋編)・・・古代ゲルマン			教科書を使い、予習復習を行う。		
	5	第4章 ファッショ文化史(西洋編)・・・中世ヨーロッパ			教科書を使い、予習復習を行う。		
	6	第4章 ファッショ文化史(西洋編)・・・近世Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			教科書を使い、予習復習を行う。		
	7	第4章 ファッショ文化史(西洋編)・・・近代Ⅰ・Ⅱ・現代Ⅰ～Ⅶ			教科書を使い、予習復習を行う。		
	8	まとめ①(第4章 復習テスト①)			教科書、小テストを使い復習する事。		
	9	第5章 礼装の種類・・・和装の礼装			教科書を使い、予習復習を行う。		
	10	第5章 礼装の種類・・・洋装の礼装			教科書を使い、予習復習を行う。		
	11	まとめ②(第5章 復習テスト②)			教科書、小テストを使い復習する事。		
	12	まとめ③(第1章 総論)			まとめプリントを使い、予習・復習を行う		
	13	まとめ④(第4章。第5章 ファッショ文化史)			まとめプリントを使い、予習・復習を行う		
	14	まとめ⑤(前期末試験対策)			対策プリントを使い、予習・復習を行う。		
15	前期末試験、解答、解説			教科書を使い、予習復習を行う。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)宿題、レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。宿題・レポートは提出期日の状況で判断する。以上を下記の観点。割合で評価する。成績基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					70%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○					10%
	発表・作品					○	10%
履修上の注意							

課目名	美容技術理論 I						
課目名(英)	Beauty Technical theory						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	渡邊正明		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	サロンに美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科1年						
授業概要	美容師資格を取得し一人前の技術者になるため美容の基礎的な理論と技術を学ぶ事を目的とする。技術には裏付けとなる理論が必ずある。「なぜそうなのか」を明確に解き明かし、より良い美容の技術と心をお客様に提供できる美容師を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○				美容用具について使用方法の説明が出来る。		
	○				シャンプーイングの目的、概要についての説明できる。		
	○				カットイングの基本手技を理解して説明ができる。		
	○				パーマントウェーブ、ヘアセットイングの概論が説明できる。		
○				ヘアカラーリング概論、染毛のメカニズムを理解して説明ができる。			
テキスト・教材 参考図書	日本理美容教育センター 美容技術理論						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	序章 美容技術理論を学ぶにあたって			教科書に目を通し予習しておく事。		
	2	1章 美容用具・・・コム、ブラシ、シザーズ			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	3	1章 美容用具・・・レーザー、ピン類ヘアクリップ、ロッド、ローラー、ヘアアイロン、ドライヤー、スチーマー			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	4	2章 シャンプーイング・・・シャンプー総論、			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	5	2章 シャンプーイング・・・サイドシャンプー、バックシャンプー			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	6	2章 シャンプーイング・・・リンス、コンディショナー、トリートメント			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	7	まとめ①(1章、2章の復習・小テスト)			プリントを使い、予習・復習しておく事。		
	8	3章 ヘアデザイン・・・錯覚現象について			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	9	3章 ヘアデザイン・・・デザインの要素			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	10	4章 ヘアカットイング・・・ヘアカットイングとは			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	11	4章 ヘアカットイング・・・ヘアカットイングの基礎理論			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	12	4章 ヘアカットイング・・・レーザーによるカット			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	13	まとめ②(3章、4章の復習・小テスト)			プリントを使い、予習・復習しておく事。		
	14	まとめ③(序章～4章までのまとめ)			プリントを使い、予習・復習しておく事。		
	15	前期試験解答・解説			教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	16	5章 パーマントウェーブ・・・パーマントウェーブの歴史と現在			教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	17	5章 パーマントウェーブ・・・パーマ剤の分類、注意事項			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	18	5章 パーマントウェーブ・・・ワインディングのバリエーション			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	19	6章 ヘアセットイング・・・ヘアセットイングとは			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	20	6章 ヘアセットイング・・・ヘアパーティング、カーリング			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	21	6章 ヘアセットイング・・・ローラーカーリング			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	22	6章 ヘアセットイング・・・アイロンセットイング			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	23	6章 ヘアセットイング・・・ウイッグとヘアピース			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	24	まとめ①(5章、6章の復習・小テスト)			プリントを使い、予習・復習しておく事。		
	25	7章 ヘアカラーリング・・・ヘアカラーリング概論			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	26	7章 ヘアカラーリング・・・ヘアカラーリングの種類、特徴			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	27	7章 ヘアカラーリング・・・染毛剤、染毛料、注意事項			プリント、教科書を使い、予習・復習しておく事。		
	28	まとめ②(7章の復習・小テスト)			プリントを使い、予習・復習しておく事。		
	29	まとめ③(5章～7章までのまとめ)			プリントを使い、予習・復習しておく事。		
30	後期末試験解答・解説			教科書2の予習しておく事。			
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する (2) 授業態度は、出席・提出物・授業中の居眠りの回数などで評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○					80%
	小テスト	○					10%
	宿題・レポート	○			○		10%
履修上の注意	授業開始前に準備を整えておく。						

課目名	美容実習 I						
課目名(英)	Beauty Technique Training I						
単位数	14単位	時間数	420時間	担当者	山口・武田・糸山・渡邊・遠藤		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	美容室にて美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科 1年次						
授業概要	国家試験合格に向けて、第二課題であるワインディングを中心に基礎技術を身に付ける。 また、衛生に関する知識、技術も同時に身に付けると共に、将来の美容業界で活躍できる基本的知識と技能も同時に習得する事も目的とする。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			練習を重ねるごとに、美容技術の課題を短時間で表現できる。	
		○				頭の丸みを理解し、能率的に作業を行うことができる。	
			○			ワインディング技術課題(オールパーパス・スタイル巻き)をそれぞれ全頭巻く事ができる。	
		○				衛生面に対しても意識を持ち作業を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	日本理美容教育センター 美容技術理論 美容道具一式						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~6	教材配布。ワインディングの教材の説明、名称、用途からの説明。					
	7~11	TONI&GUYカット ワンレンジスカット				テキストを確認し、手順の見直しを行う。	
	12~15	TONI&GUYカット グラデーションカット				テキストを確認し、手順の見直しを行う。	
	16~27	TONI&GUYカット レイヤーカット				テキストを確認し、手順の見直しを行う。	
	28~75	国家試験第二課題 ワインディングスタイル巻き 30分巻き				それぞれの課題に対して、ウイッグを持ち帰り自宅で反復練習を行う。	
	76~105	実務実習 掃除等のサロンワーク				1日の行動を振り返り、レポートを作成する。	
	106~109	国家試験第二課題 ワインディングスタイル巻き 30分巻き				各々の課題に対して、ウイッグを持ち帰り自宅で反復練習を行う。	
	110~167	国家試験第二課題 ワインディングスタイル巻き 20分巻き				各々の課題に対して、ウイッグを持ち帰り自宅で反復練習を行う。	
	168~190	ワインディング オールパーパス 20分巻き				各々の課題に対して、ウイッグを持ち帰り自宅で反復練習を行う。	
	191~210	似合わせ作品制作 3人1組				デザイン案を検討する	
評価方法	実技試験による評価 レポート提出による評価 学内でのコンテストの実績による評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験			○			80%
	レポート・宿題提出				○		10%
	学内コンテスト実績			○			10%
履修上の注意	実技試験にて評価基準に達成していない場合、補講実施。						

課目名	ヘアテクニック(ヘアカット)						
課目名(英)	Hair Technique (Hair Cut)						
単位数	6単位	時間数	180時間中の95時間	担当者	1年次担当・渡邊正明		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	サロンに美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科 1年						
授業概要	TONI&GUYベーシックにおいて全てのカット技術の基礎となるワンレンクス・グラデーション・レイヤーを理解習得しTAYAカットで更にその理解と応用を深める。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				カット技術に関する用語や姿勢を理解しTONI&GUY筆記試験において20問中15問以上の正解を得る事ができる。	
			○			TONI&GUYベーシック2パターンを5段階評価3以上を取得しベーシック検定(レイヤー)での合格をする事ができる。	
			○			TAYAカットのベーシックを理解しテーマ別のカットを表現する事ができる。	
		○				頭の形を理解し形として仕上げる事ができる。	
テキスト・教材 参考図書	TONI&GUYベーシックtext						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1~3	ワンレンクス ウィッグNO.3、NO.4を用いてワンレンクスタイム違い及びパネル取り				前回までの復習	
	4~6	ワンレンクス ウィッグNO.4~NO.7を用いてワンレンクスタイム違い及びパネル取り、NO.8にてテスト				前回までの復習	
	7~8	グラデーション ウィッグNO.2、NO.3を用いてグラデーション違い及びパネル取り				前回までの復習	
	9~11	グラデーション ウィッグNO.4~NO.7を用いてグラデーションタイム違い及びパネル取り、NO.8にてテスト				前回までの復習	
	12~14	レイヤー ウィッグNO.1、NO.2を用いてレイヤーカット				テキストにてレイヤーの項を事前学習	
	15~17	レイヤー ウィッグNO.4を用いてレイヤータイム違い及びパネル取り、筆記試験				テキストを学習	
	18~20	ベーシック検定 ウィッグNO.8にてレイヤーカット				レイヤーカットの手順やチェック項目の再確認	
	21~23	TAYAカット(レイヤースタイル・セიმレイヤースタイル)				テキストでの手順確認(復習)	
	24~26	TAYAカット(セიმレイヤー・グラデーションボブスタイル)				テキストでの手順確認(復習)	
	27~30	TAYAカット(グラデーションスタイル・アレンジデザイン)				テキストでの手順確認(復習)	
	評価方法	ワンレンクス・グラデーション・レイヤーを本校の認定講師による試験(追・再試験) TONI&GUY JAPAN講師によるレイヤーディプロマ認定試験 TAYA講師によるデザイン認定試験 授業態度・意欲					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験				○			90%
宿題・レポート					○		10%
履修上の注意	授業開始前に準備を整えておく。						

課目名	ヘアテクニック（シャンプー＆ブロー）						
課目名(英)	shampoo / blow-drying						
単位数	6単位	時間数	180時間中の30時間	担当者	遠藤・糸山・山口・武田		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	美容師として4年以上勤務		
対象学科・学年	美容科/1年生						
授業概要	美容の業務の基本であるシャンプーと、応用技術であるブロードライの基礎を学ぶ。 道具の使い方・手の動かし方、スタンスを身に付けサロンレベルの技術の修得をする。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					基本の知識/道具説明、シャンプーの手順を覚えて、実際にシャンプーができる。	
			○			手順に沿ったサイドシャンプーの技術を説明することができる。	
			○			ウィッグに対してのストレートブローが出来る。	
			○			ロールブラシでのブローが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	理論①教科書・シャンプー道具一式・ブロー道具一式						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	シャンプーの基礎を知ろう/理論①の教科書にて道具説明 シャンプー台の使い方、片付け方、シャンプー台の使い方。				理論①の教科書にて予習・復習	
	2	ブレーンリンシング(声掛け、温度確認、手とシャワーの動き)/ブロー:ストレートブロー(デンマン)				手順の確認・復習	
	3	ブレーンリンシング(声掛け、温度確認、手とシャワーの動き) /ブロー:ストレートブロー(デンマン)				手順の確認・復習	
	4	ファーストシャンプー(塗布量、声掛け、手の動き)/ブロー:ストレートブロー(デンマン)				手順の確認・復習	
	5	ファーストシャンプー(塗布量、声掛け、手の動き)/ブロー:ストレートブロー(デンマン)				手順の確認・復習	
	6	ファーストシャンプー(塗布量、声掛け、手の動き)/ブロー:ストレートブロー(デンマン)				手順の確認・復習	
	7	ファーストシャンプー(塗布量、声掛け、手の動き)/ブロー:内巻(ロールブラシ)				手順の確認・復習	
	8	セカンドシャンプー(声掛け、手の動き) /ブロー:内巻(ロールブラシ)				手順の確認・復習	
	9	フルシャンプー(塗布量、声掛け、手の動き) テスト/ブロー:テスト(ウィッグブロー)				手順の確認・復習	
	10	フルシャンプー(塗布量、声掛け、手の動き) テスト/ブロー:テスト(ウィッグブロー)				手順の確認・復習	
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)実技テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実技テスト		○	○			100%
履修上の注意	出席が12回以上の満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。(補習を完了したものを除く)						

科目名	ヘアテクニック（起業実務）						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	10/180	担当者	島田 英也		
実施年度	2020年	実施時期	後期	担当者実務経験	麻生情報ビジネス専門学校にて教鞭をとる		
対象学科・学年	美容科1年次						
授業概要	「起業実務」起業に至るまでを理解して経営のアシスタントが出来るようになる。 将来起業を行わないと漠然とした目的はあるが、そこに至るまでのプロセスやノウハウが無い為に夢のままで終わったり、挫折、離職というような状況が発生している為、起業に至るまでに必要なプロセスやノウハウを知る事で目標までが明確になり、就職後に活躍できる人材になる。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				事業計画書の骨子を説明できる。	
	○	○				店舗立地の調査方法の概略を説明でき、出店可能性を計算できる。	
	○	○				損益計算書、貸借対照表、損益分岐点の原理を説明できる。	
	○	○				創業資金の集め方を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	運営管理テキスト、教員レジメ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	起業の意義、自分の事業計画書を考える			どんなサロンを出したいか考えておくこと		
	2	店舗立地調査の方法(商圈知識、出店可能性調査、競合店調査)			課題レポート提出		
	3	経営数字の見方①(損益計算書、貸借対照表の基本)			課題レポート提出		
	4	経営数字の見方②(損益分岐点分析)			利益が出る仕組みを復習しておく		
	5	資金計画(資金の借入れ方法、借入先、返済方法)、まとめテスト			課題レポート提出		
評価方法	(1)まとめテスト(筆記)を最後の授業で行う。 (2)授業態度は、出席率で評価する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	まとめテスト	◎	○				80%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	特段の事情を除いて、授業は休まないでください。授業中の私語は、厳禁です。復習は必須です。						

課目名	ビューティースキル(ネイル)						
課目名(英)	Beauty skill(nail)						
単位数	5単位	時間数	60/150	担当者	林 理沙		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	ネイルサロンにてネイリストとして勤務		
対象学科・学年	美容科1年						
授業概要	技術者としてお客様に施術する上で、技術に合わせ専門的な知識と提案力が重要である。この授業ではネイルケアとネイル知識、衛生管理、ネイル検定3級取得を目指す。サロンワークに必要な知識と技術を習得し、お客様に信頼され常に満足して頂ける知識習得を目指す。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				JNAテクニカルベーシックに沿った爪の構造名称を覚え、爪の病気消毒法について説明することができる。	
	○	○	○			用具用材の名称と使用目的、衛生的なテーブルセッティングを学び、実践することができる。	
		○	○			爪の名称、構造を理解し正しいエメリーボードの使い方によるファイリング技術で爪の形を整える。	
		○	○			爪の構造を理解した上で安全なブツシャー、ニッパーハンドリング技術でお手入れすることができる。	
			○			赤のポリッシュをキューティクルの形に沿って美しくライン取り、表面をムラなく仕上げるすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	JNAテクニカルシステムベーシック						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	シラバス提示、教材説明、ラベル貼り、テーブルセッティング、ファイル面取り、スティック削り			スティック削りが時間内に終わらない場合は宿題		
	2	カラーリングデモ、実践			復習をしておく		
	3	ファイリングデモ、実践 カラーリング復習			復習をしておく		
	4	理論(歴史、爪の構造、皮膚科学、生理解剖学)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	5	理論小テスト、ファイリング、カラーリング復習			復習をしておく		
	6	キューティクルケアデモ、実践相モデル カラーリング			復習をしておく		
	7	カラーリング工程テスト			復習をしておく		
	8	理論(爪の病気、消毒法、色彩理論、プロフェッショナリズム)			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	9	理論小テスト、アート・テーブルセッティングと衛生管理の再確認			復習をしておく		
	10	アート、テーブルセッティングと衛生管理の再確認			3級アートのバリエーションを各自調べておくこと		
	11	過去問題解答解説			復習をしておく		
	12	カラーリング実技テスト、検定の工程を確認、実践			復習をしておく		
	13	70分タイムトライアル			復習をしておく		
	14	70分タイムトライアル			復習をしておく		
	15	70分タイムトライアル			復習をしておく		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)宿題・レポートを実施する。(3)定期試験(実技)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○		○			50%
	小テスト	○	○	○			40%
	宿題・レポート			○			10%
	発表・作品						
履修上の注意	授業では自爪に戻しておくこと						



課目名	ビューティースキル(接遇)						
課目名(英)	Beauty skill (manner)						
単位数	5単位	時間数	30時間/150	担当者	林 理沙		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	ネイルサロンでネイリストとして勤務		
対象学科・学年	美容科1年						
授業概要	ビジネススキル、カウンセリングスキルをはじめ、ビューティーコーディネーターの役割と生産性を高めるフロアマネジメントを理解し、実践を中心に身に付ける。ビューティーコーディネーターが単なるレセプション専門職ではなく美容師こそが学び、サロンワークへと活かすことができるようお客様のトータルビューティーのベースとなる知識と理論を身に付けビューティーコーディネーター3級取得を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	△	
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					接遇とは何かを説明することができる。	
		○	○			社会人としての基本的な振る舞いができる。	
	○					ヒヤリ・ハットの情報を伝え、対策を考えることができる。	
		○	○	○		ホスピタリティ(常に相手に思いやりの心)を持ち、接することができる。	
○					施術に必要な器具・用具類の名称を説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	JBCAビューティーコーディネーター3級						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	サロンにおけるビジネスキャリア				復習しておく	
	2	ホスピタリティを発揮するビジネスコミュニケーション				復習しておく	
	3	サロン内のコミュニケーション-交流分析理論				復習しておく	
	4	サロン内のコミュニケーション-印象の良い聴き方と話し方				復習しておく	
	5	サロン内のコミュニケーション-敬語、電話応対				復習しておく	
	6	就業中の基本マナー-第一印象、姿勢、お辞儀、受け渡し				復習しておく	
	7	就業中の基本マナー-ハウレンソウ、会議マナー				復習しておく	
	8	小テスト(敬語、電話応対)				復習しておく	
	9	ビューティーコーディネーターとは・・・何か				復習しておく	
	10	ビューティーコーディネーターとは・・・店舗クリンネス				復習しておく	
	11	受付接客時の言葉遣いケース例				復習しておく	
	12	アフターカウンセリングお手本とお見送り				復習しておく	
	13	トレンドを理解するには・・・				復習しておく	
	14	おしゃれの基本				復習しておく	
15	定期試験(筆記)解答解説				復習しておく		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)実践(発表)をする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト	○	○	○			70%
	宿題・レポート						
発表・作品	○		○	○		30%	
履修上の注意							

課目名	デザイン (デッサン)					
課目名(英)	Dessin					
単位数	3	時間数	「15」/「90」	担当者	松尾恭子	
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	専門学校・高校・美術大学受験予備校にて教鞭をとる	
対象学科・学年	美容科1年生					
授業概要	ドローイング技術を習得し、美術とデザイン面からの美点センスと視覚的バランス感覚を養う。美容のプロとして「人体(頭部)の解剖学的知識をつけ、モチーフを観察して、描く」を繰り返し実践する。光と影による立体感を出す表現、鉛筆による濃淡の幅を知り、紙面での立体表現に応用する。完成レベルを明確に意識して、丁寧な作品制作をする。"短期間で自らがイメージするヘアスタイル画が描けるようになる"技術を磨く。					
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標	
	○				美容のプロとして人体(頭部)の構造と立体を説明することができる。	
			○		鉛筆・練り消しゴム・サップツなど道具の持つ特性を知り、明暗、立体感・質感表現に活かすことができる。	
			○		モチーフの形態を正確に観て紙に描き写す、視覚的(美的)バランス感覚を実践できる。	
			○		クオリティーを上げていくために、常に完成レベルを明確に意識して丁寧な作品制作をしている。	
テキスト・教材 参考図書	●「DESSIN textII」九州芸術学館著 ●「人物を描く基本」三澤寛志著 ●「基本は簡単人物画」視覚デザイン研究所著 ●オリジナル作品資料 ●学生参考作品					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	頭部の構造・光と影の関係(立体感表現) 実技「正面顔のデッサン」			一度描いたものを再度描いてみる。うまく描けない部分を発見しておく。次の授業でクリアーする方法を質問する。	
	2	頭部の構造・光と影の関係(立体感表現) 実技「斜め顔のデッサン」			一度描いたものを再度描いてみる。うまく描けない部分を発見しておく。次の授業でクリアーする方法を質問する。	
	3	頭部の構造・光と影の関係(立体感表現) 実技「横顔のデッサン」			一度描いたものを再度描いてみる。うまく描けない部分を発見しておく。次の授業でクリアーする方法を質問する。	
	4	応用 実技「日本人の女性モデルを描く」 用意したモチーフから選択			配布した人物の描き方の資料を参考に、日頃から模写やクロッキーをして描くことに慣れておく。(早く上達するコツ)	
	5	応用 実技「日本人の男性モデルを描く」 用意したモチーフから選択			配布した人物の描き方の資料を参考に、日頃から模写やクロッキーをして描くことに慣れておく。(早く上達するコツ)	
	6	応用 実技「西洋人の女性モデルを描く」 用意したモチーフから選択			配布した人物の描き方の資料を参考に、日頃から模写やクロッキーをして描くことに慣れておく。(早く上達するコツ)	
	7	応用 実技「西洋人の男性モデルを描く」 用意したモチーフから選択			配布した人物の描き方の資料を参考に、日頃から模写やクロッキーをして描くことに慣れておく。(早く上達するコツ)	
	8	実技「ヘアーモデルファッション画・オリジナル作品制作」			自分の好きな「描きたいモチーフ」を準備する。	
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	発表・作品		◎	◎	◎	課題提出・完成度
履修上の注意	短期間でデッサン力を磨くために、課題は全課題提出。評価は作品提出度、作品の完成度、制作意欲で行う。作品未提出の場合、枚数毎マイナスとなる。					

課目名	デザイン(カラーコーディネート)						
課目名(英)	Design(Color Coordinate)						
単位数	3単位	時間数	30時間/90時間	担当者	荒木 成美 林 理沙 渡邊 正明		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	美容室にて美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科 1年次						
授業概要	人を美しくするプロフェッショナルとして「美を見極める力」とその基本となる知識と技能を身に着け、明確な理由に基づく色選びが出来るようになる。パーソナルカラーの知識として色の効果や配色法を学ぶことで、色の選択について豊富なボキャブラリーを用いて提案できる。パーソナルカラー検定モジュール1合格を目指す。						
授業形式	講義:	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				パーソナルカラーの基礎を理解し、色の見えるしくみについて説明できる。	
	○	○				色の四属性について理解し、属性にのっとって色を見分け説明できる。	
	○	○				各シーズンの表すイメージや特徴を理解し、各シーズンの色を見分けることができる。	
	○					パーソナルカラー検定モジュール1(初級)を取得することができる。	
テキスト・教材 参考図書	パーソナルカラー検定モジュール1公式テキスト、ワークブック パーソナルカラー配色カード、新配色カード194a、配布資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	パーソナルカラーについて(導入)、検定概要				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	PCCS色相環①・色の名前・暖色・寒色・中間色				実施内容の復習	
	3	PCCS色相環②・色相環の作成・純色				実施内容の復習	
	4	色のしくみ①・色相・明度				実施内容の復習	
	5	色のしくみ②・彩度・清濁				実施内容の復習	
	6	色を見るための条件①・光				実施内容の復習	
	7	色を見るための条件②・物体・目				実施内容の復習	
	8	色のものさし①・トーン表				実施内容の復習	
	9	色のものさし②・トーン表				実施内容の復習	
	10	色彩の心理効果				実施内容の復習	
	11	配色法・基本の配色法・配色技法				実施内容の復習	
	12	フォーシーズン分類①・「春」「夏」それぞれの属性と効果				実施内容の復習	
	13	フォーシーズン分類②・「秋」「冬」それぞれの属性と効果				実施内容の復習	
	14	パーソナルカラー実践-診断方法 ・パーソナルカラーの見分け方・ペアになりお互いを診断				実施内容の復習	
15	総まとめテスト(検定模擬試験)				講座全体の復習をしておくこと		
評価方法	(1)講座最終日に総まとめテストを実施する (2)確認の小テスト (3)カラーカード等を用いた課題の提出 (4)実習技能 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	総まとめテスト	◎					50%
	小テスト(理解度確認テスト)	○					10%
	課題	○					5%
	実習技能		◎		○		30%
	受講姿勢・出席				◎	○	5%
履修上の注意	出席回数が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を与えない						

課目名	社会教養(就職実務1)						
課目名(英)	Finding employment Practical business1						
単位数	2単位	時間数	32時間中の16時間	担当者	遠藤・重松・林・山口・糸山・武田		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	サロンに美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科・1年生						
授業概要	就職活動を控え就職を意識すると共に、内定獲得する為の社会的スキルを身に着ける。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○				学校求人を中心に企業研究をする事ができる。		
	○				学内での就職支援の機能を使いこなすことができる。		
	○				面接試験の傾向と対策を理解し、しっかりとした言動で模擬面接を行う事ができる。		
	○				作文、履歴書の記入方法を理解して、履歴書制作ができる。		
テキスト・教材 参考図書	ノート、配布物						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	学校求人を中心にリサーチ。就職を意識させる。				グループ討論・発表に対する準備。	
	2	企業の選び方のチェックポイントについて				グループ討論・発表に対する準備。	
	3	就職支援の機能を使いこなす				グループ討論・発表に対する準備。	
	4	就職試験の内容を確認する。				グループ討論・発表に対する準備。	
	5	面接試験、実技試験、作文、一般常識、適正試験など				グループ討論・発表に対する準備。	
	6	面接試験の傾向と対策。面接練習				グループ討論・発表に対する準備。	
	7	作文、論文の記入方法。				グループ討論・発表に対する準備。	
	8	履歴書の記入方法を理解する。				グループ討論・発表に対する準備。	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中でグループ発表を実施する。(2)宿題として感想文・レポートを提出を課す場合がある。 以上を下記の観点・割合で単位認定をする。 成績評価基準は、R判定とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト				○		70%
	宿題・レポート				○		20%
	発表・作品		○				10%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位認定を行わない。						

課目名	社会教養(総合学習1)						
課目名(英)	Synthesis learning1						
単位数	2単位	時間数	32時間中の16時間	担当者	遠藤・重松・糸山・武田・林・山口		
実施年度	2020年度	実施時期	通年	担当者実務経験	サロンに美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科・1年生						
授業概要	美容業界に対する実践的な教養の力を身につける事ができるように、様々な機会を企画して経験をつみ美容業界で活躍し続ける人材育成を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					業界の先輩の話を聞き、将来に対するキャリアプランを立てる事ができる。	
	○					美容業界の市場を理解して、自分のキャリアプランを具体的に説明する事ができる。	
テキスト・教材 参考図書	ノート・筆記用具						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション				課題復習をしておく	
	2	プログレッシブセミナー 業界の先輩の技術を知る				課題復習をしておく	
	3	プログレッシブセミナー クリエイティブな作品づくりに必要な事				課題復習をしておく	
	4	プログレッシブセミナー コンテストでの作品に必要な要素とは				課題復習をしておく	
	5	IMSセミナー 就職活動について				課題復習をしておく	
	6	IMSセミナー 美容業界の体験談を業界の先輩方から聞く				課題復習をしておく	
	7	プログレッシブセミナー 実務実習前の準備としての心構え				課題復習をしておく	
	8	IMSセミナー 美容業界の未来を考える				課題復習をしておく	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で発表を実施する。(2)宿題として感想文・レポートを提出を課す場合がある。 以上を下記の観点・割合で単位認定をする。 成績評価基準は、R判定とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品	○	○				100%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位認定を行わない。						

課目名	GCB I						
課目名(英)	GLOBAL CITIZEN basic 1						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	遠藤・重松・林・糸山・山口・武田		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	サロンに美容師として勤務		
対象学科・学年	美容科・1年生						
授業概要	組織の中で生きて生きていくうえで重要なマナーと協力(協働)について学び、感謝心と思いやりを身に付けて社会に貢献できる人材を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				グローバルシティズンという意味を理解し、説明する事ができる。	
				○		「協働」の意味を知り、行動ができるようになる。	
				○		マナーの本質を知り、よりよい人間関係の構築が出来るようになる。	
				○		「感謝と思いやり」を表現できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	GCB1テキストブック						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	第1講座:グローバルシティズンを目指そう /グローバルシティズンとは何かを考える。			グループ討論・発表に対する準備。		
	2	第2講座:「協働」の態度を持った学生生活に向けて～マナーの重要性 /グループ討論・発表			グループ討論・発表に対する準備。		
	3	第3講座:よりよい人間関係の構築に/社会生活におけるマナーの重要先人に学ぶ			復習をしておく		
	4	第3講座:よりよい人間関係の構築に/江戸しぐさ・先人から学ぶマナー			感想文シートの作成指示		
	5	第4講座:マナーの本質Ⅰ/相手に敬意を表する			復習をしておく		
	6	第5講座:マナーの本質Ⅱ/相手に敬意を表する(思いを伝える力、真摯な姿勢、素直な態度、誠実な傾聴) 自分を理解する(TA交流分析)			感想文シートの作成指示		
	7	第6講座:グローバルシティズンとしての日常/7つの習慣より(Win-Winを考える、理解し理解される、相乗効果を発揮する)			感想文シートの作成指示		
	8	第7・第8講座:「感謝と思いやり」を振り返る/[感謝と思いやりを振り返る]			復習をしておく		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中で発表を実施する。(2)宿題として感想文・レポートの提出を課す。 以上を下記の観点・割合で単位認定をする。 成績評価基準は、R判定とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート				○		10%
	発表・作品	○	○		○		90%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位認定を与えない。						